

令和5年7月2日

レフェリーレポート

-B級審査を終えて-

福岡県ハンドボール協会

立花 優

1.参加大会

第43回全国クラブハンドボール選手権大会 西地区大会

日時：7月1日（土）

場所：キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター

2.B級審査申し込みから準備について

B級審査を受験することを決め、高体連・中体連の大会や九州クラブ選手権予選、九州学生リーグ春季大会の審判を担当した。アドバイスをいただいた点としては、①基本動作を正しくはっきり落ち着いて行う②笛を大きく吹く③ペアレフェリーと領域分担を明確に行う④レフェリーの基準を早い段階で選手に示す⑤ペアレフェリー・オフィシャル・選手・ベンチとコミュニケーションをとることでした。これらのアドバイスを踏まえ、B級審査に向けて実技の準備を行った。

3.担当試合における気づきと反省

●熊本教員クラブ（熊本県）34-22SHB（広島県）

前半は、熊本教員クラブが終始リードを保ちながら終えたが、後半の初め一時2点差までSHBが追い上げた。前半15分でレフェリーの基準を示しきれず、流してよいプレーと段階罰を出す場面の線引きが曖昧になってしまっていたように感じた。また、前半の冒頭でシュートがゴールに入ったかどうかの判定に誤りがあり、その場を混乱させてしまう場面があった。その際に、タイマーを止めてレフェリーで話し合ったが、後から考えるとレフェリー間で即座にインカムで会話をすれば解決したことだったので、ペアレフェリーとのコミュニケーションや冷静な判断ができていなかったように感じた。後半は、SHB側に退場者が多く出たこともあり、点差がついていった形になったが、前半の早い段階で口頭での注意を増やしておくべきだった。また、レフェリーのジャッジに対して、リアクションしている選手やベンチに対して、対応する余裕がなく、うまく説明ができなかった場面もあった。

4.審査員の方々からいただいたアドバイスについて -鶴田氏・浦川氏より-

- ・背筋が丸くなっていたので、傍から見たとき自信がないように見えるので堂々と吹笛することを意識する
- ・コートレフェリーの際に、立ち位置が選手から遠い。巻き込まれることを気にして、距離を取っていることはわかるが、フリースローのときにポイントに行くことができていない。逆に巻き込まれる経験をすることで、自分の適正の位置取りを見つけることができる
- ・フリースローを取ったタイミングと同時にパッシブプレーの判定をしたが、フリースローのパスが出た直後に手を挙げてパス回数を数えるべき
- ・シュートが入ったかどうかの判断の誤りがあったが、ゴールレフェリーが判定できなかった時は、正面から見ているコートレフェリーは明確に判断できていたはずなので、ゴールインの笛を吹いていないゴールキーパーのジェスチャーをゴールレフェリーがした時点でインカムを使用して即座に会話をするべきである
- ・スローオフの際に、プレーヤーがセンターラインを越えていることを指摘できていない
- ・明らかな得点チャンスを妨害したのか、DF が勝っているのかの線引きが曖昧である
- ・肘や肩で押す身体を使って守るプレーが男子の試合では特に多いが、そのようなプレーに対して指摘できていない
- ・危険なプレーをした選手に対して、口頭で注意をすることは間違っていないが、クイックスタートをしようとしている選手に声をかけている場面があったので、声をかけるタイミングを考える
- ・サイドシュートを打った OF に対して、当たってはいけない状況だったが、DF は避けたが結果当たってしまいシュートが外れてしまった局面で、DF が避けたことが明確であると判断した場合は7mT の判定はしなくてもよい
- ・7mT の際に、スローを許可する笛を吹いた後、位置取りが終始変わっていない。もう少し GK が見える位置に移動することがのぞましい

5.今後の課題

審査会に参加し、たくさんのアドバイスをいただき、また、他の審判の方々のジャッジや立ち振る舞いを見て非常に勉強になった。実技面では、自信のなさや迷いが全面にでており、選手や見ている人にそれが伝わっていることが大きな課題である。また、競技規則の筆記試験の勉強を踏まえて、実際にジャッジするときに冷静な判断ができていないことや、筆記試験の準備が不足していたことなどの反省を踏まえ、今大会の経験を今後の自身の審判活動に活かしていきたい。

